

「留学生就職促進プログラム」ロジックモデル (R5年度要求額:157百万円)

現状

日本国内での就職を希望する外国人留学生は、単一回答の調査で43.8%、複数回答可の調査で54.9%を占めているが、国内の高等教育機関を卒業・修了した留学生のうち、実際に国内に就職した者の割合は、40%未満となっている。

課題

留学生が国内で就職するにあたっての課題として、留学生と企業間のミスマッチの存在が挙げられ、留学生側の視点からのハードルとしては、下記の2点が考えられる。

- ・一定水準以上の日本語能力(特にビジネス日本語能力)
- ・日本企業における働き方や採用・労働慣行(長期雇用・年功制等のキャリア観や労働観等)に関する理解の必要性

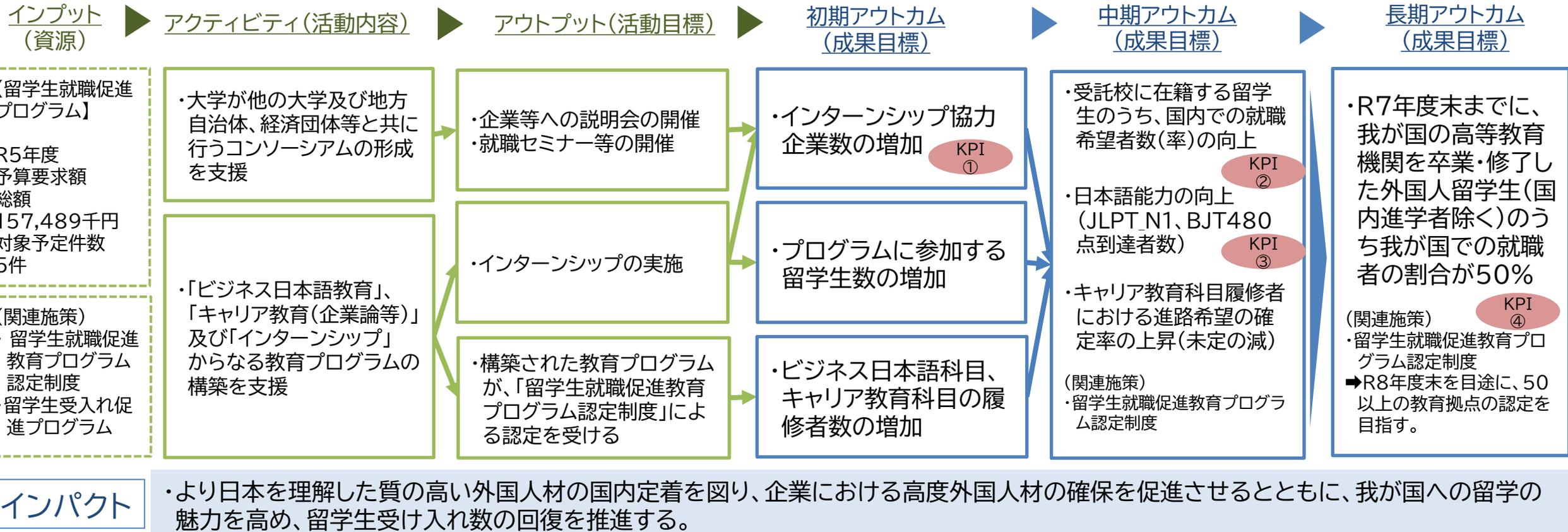
事業目的

大学が地域の自治体や産業界と連携し、就職に必要なスキルである「ビジネス日本語」、「キャリア教育(日本企業論等)」、「中長期インターンシップ」を一体として学ぶ環境を創設する取組を支援し、行う留学生の就職促進の取組を構築する

(現状・課題を示すデータ)

- ・国内の高等教育機関を卒業・修了した外国人留学生(国内進学者を除く)のうち我が国で就職した者の割合

R1 : 47.6%
R2 : 39.9%
R3 : 調査中



測定指標と目標値

- KPI ① ・1大学当たりのインターンシップ受入れ企業の数 (R3年:438社⇒R5年:65社)
- KPI ② ・1大学当たりの国内就職を希望する留学生の数 (R3年:104人⇒R7年:130人)
- KPI ③ ・一定水準以上の日本語能力を身に付けた留学生の割合 (R3年:65.8%⇒R7年:70.0%)
- KPI ④ ・留学生の国内就職率(国内進学者除く) (R2年:39.9%⇒R7年:50.0%)